

2015年1月28日

キャリア教育専門講師養成塾（案）

設立主旨

—少子高齢化社会の利点を生かす効果的なキャリア教育支援体制の強化—

- ① 教育マインドと実務経験があるベテランを、「キャリア専門講師」に養成する。
- ② リタイア世代の可能性・能力を教育に生かす（実務経験者から適性によって選抜）

現状（問題点）

- 1、キャリア教育では、企業経験者が教員に採用されるようになるケースが増加しているが、教育現場の経験がないので、大学での教員採用基準を満足していないことも内外から指摘（危惧）されている。
- 2、「教育方法のイロハ（基礎事項）」を習得していないため、教育内容・方法が自己の経験に依存するので、不安になったり、非適切な指導を行ってしまう場合も見られる。（自己の経験の押しつけになる可能性もある）
- 3、大学のキャリア教育は 卵⇒ひよこ であるのに ひよこ⇒ニワトリ の社員訓練型になる。
- 4、現在の大学や学生の現状・環境を十分把握せずに、自分の学生時代の記憶をたよりに、自己流に教えてしまうことがあり学生には「実感が湧かない」こともある。
- 5、専門的分野の経験・能力と教育への意欲があっても、効果的な教育法を知らない。（専門分野とは異なるキャリア教育には、特に 卵をひよこ育てる教授法の習得が必須）
- 6、基礎トレーニングなしで、いきなり教壇に立つと戸惑いと不安が伴うと共にストレスも大きい。（結果的に、効果・効率的でないこともある）
- 7、つい、受講生の質が揃っていない「企業の新入社員教育のレベル」の感覚で授業を進めてしまう。（命令・指示口調と上から目線、教練感覚になることも）
- 8、学内外でのFD活動や教員研修・講習にも参加できないことがあり、教育方法、授業内容の更新や振り返りおよび能力向上が不十分でマンネリ化する可能性が高い。
- 9、価値観や経験が異なる複数の講師が担当すると、授業内容や教え方にばらつきが生じてしまい（むしろ それぞれの差異が肯定され）、学生へのサービスに偏りが起きる。
- 10、受講生の理解度を十分に考慮・観察しないで、授業を進めてしまうこともあり、「独りよがりな授業や学生の理解を超えた授業」になる可能性がある。
- 11、キャリア教育担当教員の地域的な連携・交流（FD）組織が少ないので、省察・修正、情報交換や能力アップおよび気づきの機会も少ない。（教員間のPDCAが不十分）

課題

上記の問題点の解決には、次のような方策が必要となる。

- 1、的確で効果的な教授法や指導法を修得するための、教員育成カリキュラムの整備。
- 2、産業界などの人材を「キャリア専門講師」に養成する教育プログラムの実施。
- 3、人材バンクと産官学連携組織の創設と継続的運営。

キャリア専門講師養成の事前研修（案）

研修のねらい

- 1、大学の教壇に立つための基礎的留意事項の習得と能力を養成する。
- 2、トレーニングメニューを整え、事前に教育・実践・体験することで、
産業界等の人材が大学教員へスムーズにトランジションできるようにする。

研修項目と研修内容

研修領域と研修項目	研修内容
<p>1, 大学社会についての理解</p> <p>1-1 文部科学省「学士教育課程」（答申類）の理解</p> <p>1-2 最近の大学と教育事情</p> <p>1-3 大学と大学生への理解</p> <p>1-4 学生を取り巻く環境の変化（30～40年前との対比）</p> <p>1-5 特に社会・時代環境の変化</p> <p>1-6 大学生の学習・生活実態</p> <p>1-7 就職支援プログラム</p> <p>1-8 インターンシップの現状</p> <p>1-9 ボランティア活動</p> <p>1-10 部活・課外活動</p>	<p>中教審2008年12月以降の答申、学士力、質保証、ティーティング（教授）からラーニング（習得）へ…</p> <p>基礎的・汎用的能力（ジェネリックスキル）の養成、世界の大学事情、大学の数、進学率、大学の機能別評価、教養教育と専門教育、大学設置基準、単位・GPA制…</p> <p>多様な入試形態、入学前教育、学生生活、アルバイト、大学生に不足している能力、</p> <p>入学者数と基礎学力、質保証、KP・DP・カリキュラムマップ^o、シラバス、社会・企業が新卒者に求める資質・能力、社会人基礎力、汎用的技能、雇用環境、変化速度…</p> <p>グローバル化、ダイバーシティ</p> <p>学習・生活時間、大学生活で力を入れたこと、大学への適応、興味、授業への取組み、教員との交流、友人関係、進路意識、満足度、社会観・就労観、保護者との関係…</p> <p>学内で実施されている各種の就職支援、活用状況、実施形態・状況と成果、成果の生かし方、展望、実施形態・状況と成果、アルバイトとの違い、種類、参加状況と効果・成果、満足度、</p>
<p>2, 教育の実践</p> <p>2-1 授業（講義）での心得</p> <p>準備、授業の組み立て</p> <p>授業ツールの作成</p> <p>学生との対応方法</p> <p>授業マネジメント</p>	<p>話し方（発声・大きさ、テンポ）、授業デザイン、授業の進め方（つかみ・展開・まとめ、ブレイク、達成目標）、板書のポイント、PPT・レジュメ作成方法、著作権、質問票、感想票、視聴覚ツール、机間巡回、発問方法、ほめ方、激励方法、コメント・バック、経験談の生かし方、興味喚起・集中力保持方法、遅刻・私語・携帯電話対応、現代史・時事問題・社会問題についての研鑽・情報収集、欠席者フォロー、特別な配慮が必要な学生への対応、</p>

<p>2-2 TA（授業スタッフ）の活用</p> <p>2-3 アクティブ・ラーニング</p> <p>2-4 GW・GDの運営方法 （GW；グループ・ワーク） （GD；グループ・ ディスカッション）</p> <p>2-5 ブレイン・ストーミング （BS）の運営方法 ディベートの運営方法</p> <p>2-6 青年心理・発達心理学の基礎知識、 （認知心理学・脳科学の面からも）</p> <p>2-7 成績評価・アンケート対応</p> <p>2-8 模擬・体験授業 （教育実習・FD活動体験）</p> <p>2-9 教員倫理、教員の心得</p> <p>2-10 大学教員に必要な教育資質</p>	<p>前打ち合わせ（作業確認、目標共有）、授業のモニタリング、ALの必要性・効果、ALの種類と進め方、指導方法、</p> <p>GW・GDの必要性・効果、議論するテーマの明確化・具体化、議論の進め方、議論や考える端緒となるヒントの提示、各役割の心得・行動、ファシリテーション技能、学びあい・教えあいの効果、当事者意識・仲間意識、思考の拡大・転換、G発表の手順と評価ポイント、BSの必要性・効果、BSの進め方（アイデア出しの基本原則、KJ法などアイデアの整理方法、まとめ、発表）、ディベートの効果、ディベートの進め方とルールおよび判定基準、</p> <p>現代社会環境の学生への影響とその受け止め方、学齢期から青年期に至る発達心理に関する知識と認識、青年期への発達（移行）期における課題とその対処法、成績・達成度評価の必要性、評価方法・評価基準の設定と事前提示、平常点の考え方、ルーブリック評価、GPA、評価上の注意事項、評価のフィードバック、「コピペ」への対応、授業評価（アンケート）への対応、学生の教養レベルと実情の把握・体感、実践経験、模擬授業、授業参観・相互評価、FDトレーニング、学生の個人情報管理・注意事項、パワハラ・セクハラ防止研修（事例）、自己FD能力の開発と継続的実践、専門性、研究能力</p>
<p>3、キャリア教育の理解</p> <p>3-1 キャリア教育とは</p> <p>3-2 キャリア教育の現状と将来</p> <p>3-3 就職活動へのアドバイス 企業が求める人材・能力就活の 基礎と基本トレ 一般常識・時事問題研究</p> <p>3-4 学生との面談方法とスキル</p>	<p>定義、必要性、内容・評価・課題、中高のキャリア教育、変遷、これまでの実施状況、これからの内容・方向性</p> <p>就職支援活動における学生の問題点・課題（文章力・・・）、就職支援体制の課題、強み・弱みの認識法、キャリアノート・ポートフォリオの作成と活用、自己PR・エントリーシートの作成ポイント、小論文対策、面接の受け方・練習、業界・企業・職種研究の方法、適性、資格、技能、情報収集（検索）・活用方法、SPI・時事問題対策</p> <p>キャリアコンサルタントとしての心得・基本スキル、面接のプロセスとポイント、個別相談スキル、メンタルヘルスケア、学生の社会観・就労観、学生と保護者との関係、進路選択の柔軟性、</p>

4, キャリア授業各論

4-1 キャリアデザインの必要性
大学生活の過ごし方
キャリアプランの作成
時間管理・行動計画

4-2 大学での学び
講義の受け方
情報収集・時間管理
学びと社会のつながり

4-3 ノートの作成方法

4-4 学びの意義とPDCA

4-5 自立・自律

4-6 将来社会と社会人基礎力

4-7 コミュニケーション (CM)
大学でのCM
社会・職場でのCM
CM力の診断
CM力のトレーニング

4-8 マナーと敬語の基本

4-9 理論的思考・説明法
ロジカルシンキング

4-10 文章作成

【学生が達成すべきキャリア発達課題全般】

キャリアデザインとは、学習の進め方、学生時代にやっておくべきこと、目標設定方法と問題・課題解決手順、PDCAサイクルの訓練、行動習慣の見直し、キャリアデザインと社会が要望する人材像の関係、高校と大学での学びの違い、大学での学びと目標設定、学習目標・体験目標（歴史・文化・社会体験）・生活目標、学びの形態と教員の役割、クリティカルシンキング、課外活動（部活・ボランティア・IS）の効用、社会との接点、書く力・要点をまとめる力の養成、図書館の利用法、ノートとメモの効用、解りやすいノートの作成方法、マインドマップ、コンセプトマップ、学びの必要性（なぜ学ぶ）と効用、知力・知識の定着法、ラーニング・ピラミッド、PDCAの行動習慣、

主体的・能動的行動・態度の必要性（なぜ必要）と効果、自由と自己責任、個性と画一性、個人的自立と社会的自立、共生型自立、自己管理（マネジメント）、現代・戦後史、自由資本主義社会、現代社会理解のための教養、これからの社会に必要な知識労働者の必要条件、社会人基礎力の必要性とその養成方法、CM能力育成の必要性と効用、積極的傾聴とその必要性、言語表現と非言語表現、質問のコツ、CM能力向上のポイント・コツ、人に好かれる原則・人を動かす原則と心得、笑顔の効用、職場でのCMの法則、プレゼンの基礎・仕方と所作、対話と議論の進め方、アサーション、マナーや敬語の必要性と効果・効用、各敬語の使い方、マニュアル・イマドキ言葉、接遇言葉、敬語の練習、好感を持たれる原則、ネガティブ思考・ポジティブ思考、論理的思考・論理的説明の必要性と効果、説明展開法、演繹・帰納・弁証的・要素還元推論法、仮説推論法、論理的説明法、理解と納得が得られる説明方法、論理的思考法と表現（説明）法の訓練、レポート作成のポイント、わかりやすい表現、良い話し方・悪い話し方、感想文・意見文・説明文・レポートの違い、レポートのテーマ設定法・作成要件・評価ポイント、レポートの構成、論理的文章の訓練、読解力の養成、文章力の養成、要約文の作成、口頭要約の練習、報告書の作成ポイント、大人の感想文の書き方、

<p>4-11 自己理解と職業選択 強み・弱みの理解 性格・行動習慣の理解 強みの伸ばし方</p> <p>4-12 雇用環境と働く意義</p> <p>4-13 健康教育</p> <p>4-14 労働関連法規</p>	<p>自己（理解）分析の必要性と効果、自分発見・自己理解の方法、ジョハリの窓、自分史を作る意義、価値観の認識と変化、性格（長所・短所）の二面性、職業選択法、性格検査・職業興味・適性検査ツール、</p> <p>学生生活と社会人生活の違い、最近の雇用環境・問題、これからの働き方（グローバル化・ダイバーシティ）、社会保障（保険・年金）制度、終身雇用制、働く意義と目的、自己実現・自我・社会的欲求、自己成長の欲求、公民意識、仕事と生きがい、ワークライフバランス、自己投資、</p> <p>睡眠、食事、喫煙のリスク、生活習慣病、疲労対応法、ストレス対処・解消法、自律神経の活性化法、がん教育</p> <p>労働基準法、セクハラ、パワハラ、労働契約、機会均等法、採用内定の法的意味、内定辞退、就業規則の順守、年金、保険、</p>
<p>5、その他</p>	<p>キャリア・カウンセラーの基礎研修</p>